

社会福祉学科

社会福祉コース

1 年生

(講義)		科目名:フィールドワークⅠ		講師: 仁井田和也・森奈祐	
科目概要・目標	社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなものかのイメージをもてるようになること目的とする。まず、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものかを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。				
教科書		配布資料を基に学習を進める			
期末試験		校外学習において 学んだことと感想を述べよ。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、グループワーク			
第2回		校外学習説明・事前学習			
第3回		校外学習①			
第4回		校外学習②			
第5回		校外学習③			
第6回		校外学習のまとめ①			
第7回		校外学習のまとめ②			
第8回		プレゼンテーション、発表			
第9回		校外学習説明・事前学習			
第10回		校外学習(1)			
第11回		校外学習(2)			
第12回		人権センター振り返り、施設に関する事前学習			
第13回		施設訪問・見学①			
第14回		施設訪問・見学②			
第15回		施設訪問・見学③			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名： 専門研究 I		講師:山田 哲史・内山 世璃奈	
科目概要・目標	心理学に関する著名な研究の事例を簡易に紹介し、今日広く知られている基礎的な理論がどのような内容を根拠にして提唱されているのかを理解する機会を提供したい。こうした形での学習はそれぞれの心理学の理論に関して深い理解が得られるとともに、印象深いものとなることから、心理学に関する理論が教養として身につくばかりでなく、その後に各学生が国家試験をはじめ、検定試験や採用試験などで登場する心理学関連の問題の解析にも役立つことが考えられる。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/ 心理学とは			
第2回		やる気について			
第3回		睡眠について			
第4回		ファミリア・ストレンジャーと集団について			
第5回		流行症候群について			
第6回		依存について			
第7回		ストレスについて			
第8回		選択的な情報接触について			
第9回		対人恐怖について			
第10回		被害妄想について			
第11回		成功回避動機について			
第12回		自分の心を欺くことについて			
第13回		雑音に埋もれた神秘的なことについて			
第14回		明らかな誤りについて			
第15回		暴力シーンの影響について			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:文章表現(教育学科)		講師:仁井田 和也・山田 哲史	
科目概要・目標	通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、簡潔で明快な表現法である。 文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。				
教科書		随時資料を配布する			
提出課題	レポート設題 1	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。			
		このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。			
	学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について		各テーマで、自分の主張を絞り、構成を十分に考えてから作成に取り組むこと。一般論に止まらず、自分の主張を裏付けする情報などを引用することで、自分の主張に説得力を持たせるようにする。また、論理展開として、主張に一貫性があるかにも気を付けて書き、終わったら必ず読み返して、自己点検することも忘れないこと。	
	学修のポイント2	少年犯罪について			
	学修のポイント3	IT社会化について			
	学修のポイント4	環境破壊について			
	学修のポイント5	リサイクルについて			
	学修のポイント6	自殺の予防対策について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第 1 回		オリエンテーション		作文・レポート・論文の違いについて	
第 2 回		レポートの表現について			
第 3 回		IT社会化について			
第 4 回		「バリアフリー」と町の景観について			
第 5 回		学校教育における「生きる力」の育成について		山田哲史先生が実施する	
第 6 回					
第 7 回					
第 8 回					
第 9 回		少年犯罪について			
第 10 回		文献の探し方について			
第 11 回		環境破壊について			
第 12 回		リサイクルについて			
第 13 回		幸福の哲学について			
第 14 回		期末試験対策			
第 15 回		期末試験			
第 16 回		科目修了試験			
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	40点	持ち込み可。論述式。			
	30点	授業態度、提出物などによって評価する。			
備考		授業中の居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。			

(講義)		科目名:法学概論		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	社会福祉の専門家には、憲法第25条に定める生存権の保障を実現するため、様々な社会保障、社会福祉諸制度やそれにかかわる行政機関への手続きのための知識が必要である。そのため、憲法、民法、行政法の基礎知識を習得することは必要である。 この科目では、それらの学修に先立っていわゆる法学入門に相当する法や法学一般について学び、研究する。				
教科書		伊藤真『伊藤真の法学入門』日本評論社			
提出課題	レポート設題1	基本的人権の尊重について述べよ			
		基本的人権の意義について考えること。基本的人権が成立した背景、さらに一般的な特色についてもまとめること。			
	学修のポイント1	教育を受ける権利と義務について			
	学修のポイント2	親権について			
	学修のポイント3	契約の自由について			
	学修のポイント4	罪刑法定主義について			
	学修のポイント5	法の種類について			
学修のポイント6	法の段階構造について				
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、法と道徳			
第2回		近代市民法原理について			
第3回		契約の自由について			
第4回		憲法について			
第5回		基本的人権の尊重について①			
第6回		基本的人権の尊重について②			
第7回		刑法について			
第8回		罪刑法定主義について			
第9回		民法について①(総則・物権)			
第10回		民法について②(債権)			
第11回		親権について			
第12回		法人について、法の種類、法の段階構造			
第13回		行政法について			
第14回		労働法について			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加、授業中の発言等・積極性、提出物期限を評価する。		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名:生活の中の福祉		講師: 横山由里	
科目概要・目標		近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。			
教科書		山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。			
提出課題	レポート設題1	少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。			
	学修のポイント1	ライフサイクルと福祉について			
	学修のポイント2	福祉の捉え方と援助について			
	学修のポイント3	ナショナルミニマムについて			
	学修のポイント4	ノーマライゼーションについて			
	学修のポイント5	障がい者と福祉について			
	学修のポイント6	低所得者と福祉について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		学修のポイント①ライフサイクルと福祉について			
第3回		学修のポイント④ノーマライゼーションについて1			
第4回		学修のポイント④ノーマライゼーションについて2			
第5回		少子高齢化と福祉①			
第6回		少子高齢化と福祉②			
第7回		学修のポイント⑥低所得者と福祉について			
第8回		学修のポイント②福祉の捉え方と援助について1			
第9回		学修のポイント②福祉の捉え方と援助について2			
第10回		学修のポイント③ナショナルミニマムについて			
第11回		学修のポイント⑤障がい者と福祉について			
第12回		さまざまな福祉サービス			
第13回		さまざまな福祉施設①			
第14回		さまざまな福祉施設②			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献: 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。			

(講義)	科目名:アメリカの文化と言語 I		講師: 米田尚美
科目概要・目標	これからの国際社会に対応していくためには世界的公用語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの暗記を中心とした受験英語とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聞く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音・文法・語法等)を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。		
教科書	ピーター・セラフィン、根間弘海 “Twenty American Heroes” 三修社、2017年		
提出課題	設題	8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。 ＜ポイント＞公民権運動とは1950年代のアメリカにおいて、黒人を中心に始められた人種差別撤廃運動である。Martin Luther King, Jr.はアメリカにおける人種差別において、公民権運動の指導者としてどのように貢献したか。また、彼の掲げた「非暴力」そして、不朽の名演説「私には夢がある(I Have A Dream)」は、人々にどのようなメッセージを投げかけたのか。Martin Luther King, Jr.の思想が人種差別思想や米国憲法修正に与えた影響について考察すること。	
	学修のポイント2	英文を日本語で要約せよ。さらに、Elvis Presleyに対するあなたの印象を述べよ。 ＜ポイント＞当時のアメリカの社会状況をよく理解した上で、音楽史上におけるプレスリーのロックン・ロールの位置づけを考察する。また、あまりに早い最期を遂げたプレスリーの「有名人の孤独」についても考える。	
	学修のポイント1	英文を日本語で要約せよ。さらに、Steven Spielbergの作品の一つ挙げてあなたの印象を述べよ。 ＜ポイント＞スピルバーグの人となり、彼の映画製作に向かう姿勢を理解し、具体的に説明できるよう理解を深める。単純な映画の感想文に陥らないようにすること。	
	学修のポイント3	英文を日本語で要約せよ。さらに、Gatesに対するあなたの印象を述べよ。 ＜ポイント＞現在のIT社会を築き上げた功労者であり、また新しい問題点を作り出した人物でもある。パソコンとインターネットの普及から派生する諸問題に対する解決策、対応策を考えるとよい。	
	期末試験	後日発表	
回数	授業内容	授業目標	
第1回	オリエンテーション	学修のポイント2作成	当時のアメリカの時代背景を理解した上でElvis Presleyの生い立ちや音楽性を理解する。
第2回			
第3回			
第4回	レポート作成指導	キング牧師について	黒人差別が起こった背景を理解した上で公民権運動(人種差別撤廃運動)について理解する。 “I Have A Dream”のスピーチにおいて、キング牧師が何を伝えたかったのかを理解する。
第5回			
第6回			
第7回	学修のポイント1作成	Steven Spielbergについて	Steven Spielbergの作品に描かれている“Childlike”とは何かを理解する。
第8回			
第9回			
第10回	学修のポイント3作成	Bill Gatesについて	Bill Gatesの功績をふまえた上で、メディアリテラシーについても理解を深める。
第11回			
第12回			
第13回	まとめ		
第14回	期末試験対策		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	30点	持込み不可(教科書の内容理解を問う問題を中心とする予定)	
	20点	評価ポイント:提出物(下書きレポート・清書レポート・学修のポイント2本)の内容・提出期限を守れたか ※遅れた場合は減点	
	20点	評価ポイント:授業態度・忘れ物・授業前課題・授業内課題	
備考	本授業は英文読解とその要約が中心です。授業についていくためにも各自予習復習を行うこと。		

(講義)		科目名:社会福祉入門		講師: 横山由里	
科目概要・目標		少子高齢化が進むわが国は、ますます福祉重視型の社会をめざしている。これから社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、福祉の基本や福祉に関連する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の職業に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何か等を学修する。また同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会における、これからの福祉のあり方についても考える。			
教科書		立花直樹・波田埜英治・家高将明 編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉4 社会福祉 原理と政策』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみが定められた背景とそのしくみの概要について述べよ。			
	学修のポイント1	わが国の社会福祉法制について			
	学修のポイント2	わが国の社会保障制度の体系について			
	学修のポイント3	わが国の社会福祉行財政について			
	学修のポイント4	社会福祉を支える原理について			
	学修のポイント5	わが国における貧困をめぐる現状について			
	学修のポイント6	地域福祉の意義とその担い手について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント①わが国の社会福祉法制について			
第2回		学修のポイント⑤わが国における貧困をめぐる現状について			
第3回		学修のポイント②わが国における社会保障制度の体系について			
第4回		福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ①			
第5回		福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ②			
第6回		福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ③			
第7回		学修のポイント③わが国の社会福祉行財政について			
第8回		学修のポイント⑥地域福祉の意義とその担い手について			
第9回		学修のポイント④社会福祉を支える原理について			
第10回		わが国の高齢者福祉について①			
第11回		わが国の高齢者福祉について②			
第12回		バリアフリーとユニバーサルデザイン①			
第13回		バリアフリーとユニバーサルデザイン②			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献：東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。			

(講義)		科目名:ジェンダー論		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標		現代社会では性別役割の境目が不明瞭になってきている。どこまでが生物学的に決定された性であり、どこまでが社会的に規定された性(ジェンダー)であるかは、今後の社会を考える上で大きな問題となりうる。他の先進国における今日の男女間における価値観やライフスタイル(結婚、出産育児、労働問題など)と比較しながら、日本社会の今後の変遷を予測し、望ましい社会様式を模索する。また、ゲイなどのマイノリティのセクシャリティー問題や、シングルマザーなどの人々の問題にもアプローチを試みる。			
教科書		なし。授業中に適宜紹介する。			
提出課題	レポート設題1	性差別と性の役割について述べよ。			
	学修のポイント1	ジェンダーについて			
	学修のポイント2	フェミニズム運動について			
	学修のポイント3	女性の労働について			
	学修のポイント4	近代家族と性役割について			
	学修のポイント5	アイデンティティとジェンダーについて			
	学修のポイント6	ジェンダー政策について			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		ジェンダーを社会学的視点からみるとは			
第2回		生物学的性差とジェンダー			
第3回		セクシュアリティとジェンダー(セクシャルマイノリティについて)			
第4回		歴史の中のジェンダー(時代によって変わるジェンダー観)			
第5回		「女らしさ」「男らしさ」(ジェンダーの形成と諸問題)			
第6回		性差別とジェンダー(ジェンダー・バイアス、性差別撤廃への動き)			
第7回		レポート作成日			
第8回		文化の中のジェンダー(国や文化で変わるジェンダー観)			
第9回		家族の中のジェンダー(戦後の変容する家族、家族問題)			
第10回		労働とジェンダー(男女間格差、男性の長時間労働など)			
第11回		セクシャルハラスメントについて			
第12回		教育とジェンダー			
第13回		セクシュアリティと政策			
第14回		ジェンダー政策のゆくえ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、レポート下書き1本)期限厳守。遅れた場合は減点。		
		5点	グループワーク		
15点		授業態度(態度、発言、コメントシートの記入等から判断する)			
備考		参考文献:伊藤公雄『新訂 ジェンダーの社会学』放送大学振興会			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習 I		講師:高橋直子	
科目概要・目標	Wordを使って、文字入力の練習と いろいろな文書作成およびグラフィカルな文書を作成できるようにする。				
	教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)		
期末試験		実技試験(1枚の文書を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		文字の入力と簡単な文書を作成			
第2回		定型文書の作成			
第3回		レポートや報告書の作成			
第4回		復習			
第5回		表作成の練習			
第6回		表のある文書の作成			
第7回		すこし複雑な表のある文書の作成			
第8回		画像など利用した文書の作成			
第9回		図形など利用した文書の作成			
第10回		簡単な地図のある文書の作成			
第11回		SmartArtなど利用した文書の作成			
第12回		縦書き文書の作成			
第13回		横置き文書の作成			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(講義)	科目名： 福祉と教育		講師： 山田哲史
科目概要・目標	これからの時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応じて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかなければならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。		
教科書	指定なし。		
レポート	「福祉と教育」を学ぶ意義について述べよ。		
提出課題	学修のポイント1	日本で行われている教育方法の現状について	
	学修のポイント2	これからの大学教育について	
	学修のポイント3	教師の意識について	
	学修のポイント4	バ이스ティックの7つの原則について	
	学修のポイント5	これからの社会福祉と福祉教育について	
	学修のポイント6	上記5つ以外の内容で、「福祉と教育」について興味や関心を持ったことについてまとめよ。	
期末試験	(授業時に指示します。)		
回数	授業内容		
第1回	これからの社会福祉と福祉教育について(1)		
第2回	これからの社会福祉と福祉教育について(2)		
第3回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(1)		
第4回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(2)		
第5回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(3)		
第6回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(4)		
第7回	日本で行われている教育方法の現状について		
第8回	これからの大学教育について		
第9回	バ이스ティックの7つの原則について(1)		
第10回	バイスティックの7つの原則について(2)		
第11回	教師の意識について(1)		
第12回	教師の意識について(2)		
第13回	「福祉と教育」をめぐる(1)		
第14回	「福祉と教育」をめぐる(2)		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	30点	持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント	
	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁	
	20点	課題提出状況	
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。		

(講義)	科目名:地域コミュニケーションワーク		講師:山田 哲史
科目概要	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひと一人が目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。		
教科書		適宜配布	
期末試験		授業時に通知する。	
回数	授業内容		
第1回	心の元気づくりについて		
第2回	レクリエーション支援におけるホスピタリティについて		
第3回	人が物事に夢中になる仕組みについて		
第4回	活動そのものの楽しさについて		
第5回	達成感からもたらされる楽しさについて		
第6回	対象者との意思疎通を促進する方法について		
第7回	成功体験を楽しむ方法について		
第8回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について		
第9回	アイスブレイキングについて		
第10回	アイスブレイキングが必要な場面について		
第11回	CSSプロセスについて		
第12回	プランの考案(1)		
第13回	プランの考案(2)		
第14回	プランの考案(3)		
第15回	プランの考案(4)		
第16回	プランの考案(5)		
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	20点	この授業は後期まで延長して実施しますので、後期に実施予定です。詳細は後ほど案内します。	
	30点	評価ポイント:授業内課題・発表内容	
	20点	評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無	
備考	本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(講義)		科目名： 心理学概論		講師： 内山 世璃奈	
科目概要・目標	現代社会が抱えるさまざまな問題と心理学の観点からアプローチできるようここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の問題を紐解く」、「心のケアと支援」、という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学修していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】2 心理学と心理的支援』中央法規			
提出課題	レポート設題1	各発達段階の特徴について述べよ。			
	学修のポイント1	人格の諸理論について			
	学修のポイント2	人間の感覚・知覚・認知の特質について			
	学修のポイント3	人間の発達課題について			
	学修のポイント4	心理学的アセスメント(見立て)について			
	学修のポイント5	対人関係の発展について			
	学修のポイント6	心理療法について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/P1 人格の諸理論について			
第2回		P1 人格の諸理論について			
第3回		P1 人格の諸理論について 作成			
第4回		P3 人間の発達課題について			
第5回		P3 人間の発達課題について			
第6回		P3 人間の発達課題について			
第7回		R1 各発達段階の特徴について			
第8回		R1 各発達段階の特徴について			
第9回		R1 各発達段階の特徴について			
第10回		P4・P6 アセスメント・心理療法について			
第11回		P4・P6 アセスメント・心理療法について			
第12回		P5 対人関係の発展について			
第13回		P5 対人関係の発展について			
第14回		期末対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

社会福祉学科

社会福祉コース

2年生

(講義)		科目名:精神保健福祉制度論		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	本科目は以下に挙げる内容について理解することを目的とする。①精神障害者に関する法律の体系についての理解。②精神障害者の医療に関する制度(精神保健福祉法の概要及び医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割、精神障害者の医療に関する課題)、③精神障害者の生活支援に関する制度(相談支援制度、居住支援制度、就労支援制度などと精神保健福祉士の役割並びに精神障害者の生活支援制度に関する課題)、④精神障害者の経済的支援に関する制度(生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得者対策等諸制度と精神保健福祉士の役割について、及び精神障害者の経済的支援制度に関する課題)				
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神 保健福祉制度論』中央法規			
提出課題	レポート設題 1	精神保健福祉法成立までの過程とその内容について記述せよ。			
	学修のポイント1	医療観察法の基本的仕組み について述べよ。			
	学修のポイント2	障害者総合支援法について、その成立過程と概要を 述べよ。			
	学修のポイント3	障害年金(精神障害者が利用できるもの)について、その 概要と受給 の内容を 述べよ。			
	学修のポイント4	医療に関する制度や施策(国レベルの医療制度や施策と自治体レベルの医療費助成) について述べよ。			
	学修のポイント5	生活困窮者自立支援制度 について、その概要 と各事業について述べよ。			
	学修のポイント6	低所得者対策 について、その概要を 述べよ。			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する			
第2回		精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について			
第3回		実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて			
第4回		障害者の医療に関する制度、医療計画について学ぶ			
第5回		医療観察法の概要と精保士の役割について			
第6回		精神障害者の医療関連する施策について			
第7回		精神障害者の生活支援に関する制度について(基本的考え)			
第8回		相談支援制度についての理解(相談支援の概要)			
第9回		居住支援制度及び就労支援制度について			
第10回		精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)			
第11回		精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)			
第12回		精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)			
第13回		生活困窮と生活保護制度について			
第14回		生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(講義)		科目名:ソーシャルワークの基盤と専門職		講師: 森奈祐	
科目概要・目標		社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法)について理解した上で、ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方(原理・理念)を学び、現代にいたるまでのソーシャルワークの歴史的な形成過程について学ぶ。 さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーそれぞれの倫理綱領を読み解き、ソーシャルワークの価値規範と倫理について考究を行う。			
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規			
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワーカーの倫理綱領・行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なのかを考察せよ。 ①社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーのいずれかの倫理綱領、又は行動規範の内容をまとめ説明する。 ②ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが重要なかを述べる。			
	学修のポイント1	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について			
	学修のポイント2	ソーシャルワークの理念について			
	学修のポイント3	ソーシャルワークの源流と基礎確立期の歴史的展開			
	学修のポイント4	ソーシャルワークの発展期について			
	学修のポイント5	ソーシャルワークの展開期と統合化について			
	学修のポイント6	日本におけるソーシャルワークの形成過程について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法			
第2回		ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について①			
第3回		ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について②			
第4回		コンピテンシーについて			
第5回		ソーシャルワークの倫理			
第6回		専門職倫理の概念と倫理綱領			
第7回		ソーシャルワークの原理			
第8回		ソーシャルワークの理念①			
第9回		ソーシャルワークの理念②			
第10回		ソーシャルワークの源流と基礎確立期①			
第11回		ソーシャルワークの源流と基礎確立期②			
第12回		ソーシャルワークの発展期			
第13回		ソーシャルワークの展開期と統合化			
第14回		日本におけるソーシャルワークの形成過程			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名:公的扶助論		講師:金 碩浩	
科目概要・目標	この科目では、社会保障制度において“救貧”を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学修する。具体的には、公的扶助制度の 歴史的経緯 などを 学ぶとともに、わが国における公的扶助制度として生活保護制度の 目的、原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題など について 学ぶ。また、低所得者支援の制度として、生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度等についても学ぶ。				
教科書		『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規			
提出課題	レポート設題1	【設題1】生活保護の基本原則の一つである補足性の原理について述べなさい。 ＜ポイント＞生活保護法の該当部分の条文を踏まえ、保護の要件とされることと、保護に優先されることを中心に、現状の制度の問題点とともに論じること。			
	学修のポイント1	貧困をとらえる3つのアプローチについて			
	学修のポイント2	生活保護制度の2つの目的について			
	学修のポイント3	生活扶助基準の構成について			
	学修のポイント4	生活保護制度の動向とその背景について			
	学修のポイント5	住宅に関する低所得者支援関連施策について			
	学修のポイント6	生活困窮者自立支援制度について			
期末試験		講義の中で発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、公的扶助の概念 p2～8			
第2回		貧困の概念度と貧困をとらえる3つのアプローチ p18-26			
第3回		生活保護制度の目的と4つの基本原則① p66-69			
第4回		生活保護制度の4つの基本原則②(補足性の原理) p69-72			
第5回		生活保護制度の4つの基本原則 p73-76			
第6回		生活保護基準①(保護の種類と内容) p76-92			
第7回		生活保護基準②(最低生活保障水準等) p102-109			
第8回		生活保護制度の動向とその背景① p110-122			
第9回		生活保護制度の動向とその背景② p27-40			
第10回		住宅に関する低所得者支援関連施策 p153-165			
第11回		生活困窮者自立支援制度 p124-144			
第12回		貧困支援における関係機関と専門職の役割 p166-195			
第13回		まとめ、レポート作成			
第14回		期末試験/科目終了試験対策			
第15回		期末試験(持ち込み不可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。 ※欠席・遅刻しないこと。		
	期末試験	30点	持ち込み不可		
	授業内評価	20点	レポート及び課題 ※期限を守ること。		
		20点	受講姿勢 ※積極的に参加すること。禁止事項を守ること。遅刻しないこと。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン・イヤホン等使用厳禁。			

(講義)		科目名:社会保障論		講師:金 碩浩	
科目概要・目標	本科目では、社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。 社会保障制度は頻繁に改正が行われている。教科書だけでなく、様々な文献で最新の動向を把握しながら、学修すること。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座7 社会保障』中央法規			
提出課題	レポート設題1	(設題1) 近年の公的年金制度改正の内容や背景、その意義について、述べなさい。			
	レポート設題2	(設題2) 労災保険の給付対象となる災害と、給付の内容について、述べなさい。			
	学修のポイント1	社会支出の国際比較について			
	学修のポイント2	健康保険制度の被保険者と被扶養者について			
	学修のポイント3	雇用保険制度の雇用継続給付について			
	学修のポイント4	医療保険制度における出産に関する給付について			
	学修のポイント5	垂直的再分配と水平的再分配について			
	学修のポイント6	1980年代の社会保障制度改革について			
期末試験		講義の中で発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、現代社会と社会保障 p2～21			
第2回		社会保障の概念・対象・理念、垂直的・水平的再分配 p24-43			
第3回		公的年金制度① p159-195			
第4回		公的年金制度② p159-195			
第5回		医療保険制度① p116-141			
第6回		医療保険制度② p116-141			
第7回		労災保険制度① p196-206			
第8回		労災保険制度② p196-206			
第9回		中間まとめ、レポート課題1の作成			
第10回		雇用保険制度の雇用継続給付 p206-217			
第11回		社会支出の国際比較 p70-79、260-268			
第12回		1980年代の社会保障制度改革 p48-58			
第13回		まとめ、レポート課題2の作成			
第14回		期末試験/科目終了試験対策			
第15回		期末試験(持ち込み不可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。 ※欠席・遅刻しないこと。		
	期末試験	30点	持ち込み不可		
	授業内評価	20点	レポート及び課題 ※期限を守ること。		
		20点	受講姿勢 ※積極的に参加すること。禁止事項を守ること。遅刻しないこと。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン・イヤホン等使用厳禁。			

(講義)		科目名:児童・家庭福祉論		講師: 横山由里	
科目概要・目標	少子高齢化社会の進行、家庭や地域における子育て機能の低下などにより、子育て環境が著しく変化している。これからの子ども家庭福祉においては、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような子ども家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえ、子どもや家庭を取り巻く現代社会、次世代育支援と子ども・子育て支援、子ども家庭福祉の理念と子どもの権利擁護、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健施策とソーシャルアクションなどについて学修する。				
	教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』中央法規		
提出課題	レポート設題1		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。		
	学修のポイント1		子ども家庭福祉とは何か		
	学修のポイント2		少子化高齢化社会の現状と子育て・子育てへの影響について		
	学修のポイント3		子ども家庭福祉に関わる法制度について		
	学修のポイント4		子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について		
	学修のポイント5		児童虐待にかかわる支援や対策について		
	学修のポイント6		子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて		
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント②子ども家庭福祉とは何か			
第2回		学修のポイント⑤児童虐待対策について			
第3回		学修のポイント⑥子ども家庭福祉への援助活動について			
第4回		子ども家庭福祉にかかわる専門職について			
第5回		学修のポイント①現代社会と子ども家庭について			
第6回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について①			
第7回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について②			
第8回		学修のポイント④子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について			
第9回		学修のポイント③子ども家庭福祉に関わる法制度について			
第10回		現代の子ども家庭のかかえる課題①			
第11回		現代の子ども家庭のかかえる課題②			
第12回		現代の子ども家庭のかかえる課題③			
第13回		現代の子ども家庭のかかえる課題④			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		20点		
	授業内評価		30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点	
			20点	積極的な授業態度	
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献:厚生労働省『厚生労働白書』。			

(講義)		科目名:養護原理/社会的養護Ⅰ		講師: 横山由里	
科目概要・目標		児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的に展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そこで本科目では、児童養護に関する理念と考え方、児童養護の役割や形態、児童養護の歴史的変遷など、基礎的知識を学修する。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。			
教科書		小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。			
提出課題	レポート設題1	児童養護の意義と基本原理について述べよ。			
	レポート設題2 (社会福祉コースのみ)	施設で用いられる個別援助技術(ケースワーク)について述べよ。			
	学修のポイント1	社会的養護及び児童養護の意義と基本原理について			
	学修のポイント2	児童養護の制度と社会的養護の特質について			
	学修のポイント3	社会的養護と日常生活及び自立支援について			
	学修のポイント4	社会的養護と親子・地域との関係調整について			
	学修のポイント5	社会的養護に関わる職員の資質について			
	学修のポイント6	児童支援におけるチームワークについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		児童養護の意義と基本原理①			
第2回		児童養護の意義と基本原理②			
第3回		施設で用いられる個別援助技術について①			
第4回		施設で用いられる個別援助技術について②			
第5回		施設で用いられる個別援助技術について③			
第6回		学修のポイント①児童養護の意義と基本原理について			
第7回		学修のポイント②社会的養護の制度と特質について			
第8回		学修のポイント③社会的養護の日常生活及び自立支援について			
第9回		学修のポイント④社会的養護における親子・地域との関係調整について			
第10回		学修のポイント⑤社会的養護に関わる職員の資質について			
第11回		学修のポイント⑥子どもの支援におけるチームワークについて			
第12回		社会的養護にあげられる課題①			
第13回		社会的養護にあげられる課題②			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献:山縣 文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。			

(講義)		科目名:フィールドワークⅢ		講師: 仁井田和也、森奈祐、上松勝二郎	
科目概要・目標	社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなものかのイメージをもてるようになること目的とする。まず、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものかを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。				
教科書	配布資料を基に学習を進める				
期末試験	校外学習において 学んだことと感想を述べよ。				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	ボランティア活動に関する説明・事前学習				
第3回	ボランティア活動				
第4回	ボランティア活動				
第5回	ボランティア活動				
第6回	ボランティア活動				
第7回	ボランティア活動の個人振り返り・施設見学の準備				
第8回	ボランティア活動の個人振り返り				
第9回	ボランティア活動の発表資料提出				
第10回	ボランティア活動の発表				
第11回	ボランティア活動の発表				
第12回	施設見学(7/2, 8/20, 8/27のうちの1日)				
第13回	施設見学(7/2, 8/20, 8/27のうちの1日)				
第14回	施設見学(7/2, 8/20, 8/27のうちの1日)				
第15回	施設見学についてのレポート提出				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加・発言、提出物の内容・期限を評価		
備考	授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。				

(講義)		科目名:一般教養対策講座Ⅰ		講師:室山 俊浩・山田 哲史	
科目概要・目標	近い将来、就職試験に臨むことを前提にして、民間企業で出題される一般教養(常識)をはじめ、公務員試験や教員採用試験で出題される一般教養の試験への対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。2年生や3年生のうちに時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていくことが大切である。				
	教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
	期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。		
	回数		授業内容		
	第1回		オリエンテーション		
	第2回		社会科学・人文科学①		
	第3回		数的推理・判断推理①		
	第4回		社会科学・人文科学②		
	第5回		社会科学・人文科学③		
	第6回		数的推理・判断推理②		
	第7回		社会科学・人文科学④		
	第8回		社会科学・人文科学⑤		
	第9回		数的推理・判断推理③		
	第10回		社会科学・人文科学⑥		
	第11回		社会科学・人文科学⑦		
	第12回		数的推理・判断推理④		
第13回		社会科学・人文科学⑧			
第14回		社会科学・人文科学⑨			
第15回		社会科学・人文科学⑩			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:青年心理学		講師: 木村 洋太	
科目概要・目標	10代半ば～20代前半はまさに青年期と呼ばれる時期に位置し、大学生の”今”が詰まった時期と言える。この授業では、これまでの自分の体験をもとに青年期を考えることから出発し、周りの友だちの体験、そして心理学の理論・データの知見を参考にしながら、青年期に深く関わるテーマ(自己・友人関係・反抗期・恋愛・勉強など)に目を向ける。授業を通して、自由な心のあり方を学び、更新されていく自分の姿を感じながら自己の理解を深めて欲しい。				
	教科書	教科書は指定せず、講義レジュメと参考資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。			
期末試験	詳細は、後日に決定する				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション 青年心理学と周辺領域				
第2回	青年期とはいつなのか？ 発達段階とはなにか				
第3回	自分の始まりについて考える：乳幼児期の発達				
第4回	児童期までの発達				
第5回	認知発達からみる 児童期～青年期の学習のつまづき				
第6回	自分探しの青年心理学1：合意形成：互いに違う価値観の理解				
第7回	自分探しの青年心理学2：現代青年のアイデンティティ				
第8回	自分探しの青年心理学3：アイデンティティの拡散				
第9回	自分探しの青年心理学4：恋愛の心理学				
第10回	自分探しの青年心理学5：アイデンティティと健康				
第11回	親子関係の発達変化 - 大人にイラっとするとき 反抗期を考える				
第12回	友人関係の発達変化 - 私たちって親友だよ				
第13回	青年期に起こりやすいところの病気の理解その1				
第14回	青年期に起こりやすいところの病気の理解その2				
第15回	青年期に起こりやすいところの病気の理解その3				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	論述式。持ち込み可。		
	授業内評価	30点	毎授業提出するワークシート、授業の参加姿勢などを総合的に評価する。		
備考(メッセージ)		みなさんにとっての「あるある」が授業内に詰まっています。青年期は、ココロと身体が飛躍的に変化する時期であるゆえに、様々に苦しむ時期でもあります。いいところも悪いところも、自分の理解を深めることで、これからの見通しに役立てられるような下地をつくりましょう。			

(講義)		科目名:精神保健学		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題を考える。 具体的には、精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た(1)家族の課題とアプローチ、(2)学校教育の課題とアプローチ(3)勤労者の課題とアプローチ(4)現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種(保健師等)と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。				
	教科書		新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学—精神保健の課題と支援』へるす出版		
提出課題	レポート設題1	ライフサイクルにおける精神保健について述べよ			
	レポート設題2	精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ			
	学修のポイント1	認知症高齢者対策について			
	学修のポイント2	アルコール関連問題について			
	学修のポイント3	世界の精神保健の現状について			
	学修のポイント4	思春期精神保健対策について			
	学修のポイント5	地域での精神保健施策の現状と課題について			
	学修のポイント6	現代社会の精神保健学的な課題と対策について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)			
第2回		ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)			
第3回		ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)			
第4回		ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)			
第5回		ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)			
第6回		わが国の精神障害対策			
第7回		アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について			
第8回		思春期の精神保健対策			
第9回		地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策			
第10回		緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて			
第11回		家庭における精神保健、学校における精神保健			
第12回		地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究			
第13回		メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携			
第14回		世界の精神保健			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点			
備考					

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅱ		講師: 戎 弘志	
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。ソーシャルワーク演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接 やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。 ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 1) ケースワークのプロセスについて説明ができる。				

(講義)		科目名:精神保健福祉の原理		講師: 眞口 良美	
科目概要・目標	本科目は、障害者福祉の思想と原理、理念、また歴史的展開を理解したうえで、現代の「障害」や「障害者」に関する概念について学ぶ。また、諸外国の動向を踏まえ、日本の障害に関する現状や課題、精神科医療の特異性を学修する。さらには現代社会にあって、精神保健福祉士が有すべき原理や価値、理解しておくべき根拠法(精神保健福祉士法)や倫理綱領、職域と業務内容について考究することを目的とする。具体的には次の7つの項目を学修目標とする。 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職業について理解する。 ⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。				
	教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理』中央法規。		
	提出課題	レポート設題1	精神障害についての概念について説明せよ。 ＜ポイント＞ ICIDH と ICF を援用した精神障害の構造を説明する。そのうえで、疾病と障害の共存について、障害の可逆性、環境因子との相互作用、体験としての障害などについて具体例を挙げながら述べること。		
		レポート設題2	明治期から現代にかけて、精神障害者の対応法の歴史的変遷について述べよ。 ＜ポイント＞ 精神病患者監護法・精神病院法の戦前二法がいかなる状況で制定されたのか、またどのような内容の法令であったかを述べる。 加えて、1950年成立した、精神衛生法がいかなる改正を経て現在に至っているのかについて述べること。		
		学修のポイント1	1965年と1987年の精神衛生法改正について、その内容と改正のきっかけになった事件の内容を書け。		
		学修のポイント2	わが国の精神科医療の特異性について述べよ。		
		学修のポイント3	精神障害者の家族が置かれている状況について述べよ。		
		学修のポイント4	「Y問題」について、概要とその後の影響を述べよ。		
学修のポイント5		エンパワメントとリカバリーについて、その特徴と定義を述べよ。			
学修のポイント6	精神保健福祉士法(*注意:精神保健福祉法ではない)について、その概要を述べよ。				
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		「精神保健の原理とは何か」 「障害者福祉の理念と歴史的展開」			
第2回		「制度における『精神障害者』の定義」 「国際生活機能分類(ICF)と精神障害」「精神障害の『精神特性』」			
第3回		「精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流」 「諸外国における排除と歴史とその後の展開」			
第4回		「日本における排除の歴史と構造」 「日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み」			
第5回		「精神科医療による生活への影響」 「精神障害者の家族がおかれている状況」			
第6回		「精神障害者の社会生活の実態」 「メンタルヘルスをめぐる新たな課題」			
第7回		「精神保健福祉士の原理が培われた足跡」 「精神保健福祉士による実践の価値・原理」			
第8回		「精神保健福祉士による実践の視野や視点」 「援助における関係性」			
第9回		「精神保健福祉士法の理解」 「精神保健福祉士の職業倫理」			
第10回		「精神保健福祉士の業務特性と業務指針」 「精神保健福祉士の職場・職域」「精神保健福祉士の業務内容とその特性」			
第11回		期末試験			
第12回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	課題提出物の評価		
		20点	授業への関心・態度・意欲		
備考					

社会福祉学科

社会福祉コース

3年生

(講義)		科目名:社会調査法		講師: 中 篤 洋	
科目概要・目標		本 科 目 は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会福祉調査の基礎」に対応するものである。本 科 目 では、社会調査および社会福祉調査の基礎的事項を学習するが、社会福祉調査は社会福祉領域での社会調査のことであるため、本 科 目 の内容の多くの部分は社会調査に関するものとなる。本 科 目 を学習 することにより、社会調査の重要性、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点、社会福祉領域における社会調査の活用法について把握することが可能となる。			
教科書		『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規			
提出課題	レポート設題1	社会調査 および社会福祉調査 の性格についてまとめ た上で 、量的調査(統計調査)と質的調査(事例調査)の相違について述べよ。			
	学修のポイント1	社会調査における倫理と個人情報保護について			
	学修のポイント2	全数調査と標本調査の特徴および標本抽出法について			
	学修のポイント3	質問紙の作成方法と留意点について			
	学修のポイント4	質問紙の配布と回収の方法について			
	学修のポイント5	質的調査のデータ収集法について			
	学修のポイント6	質的調査における記録の方法と留意点について			
期末試験		後日連絡する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・社会調査とは・社会調査の種類・社会調査の意義と目的・量的調査の方法とその特徴について・サンプリングの方法とそれらの特徴について			
第2回					
第3回		調査票作成上の諸注意点について			
第4回		量的調査によるデータ解析			
第5回		質的調査の方法とその特徴について(1)			
第6回		質的調査の方法とその特徴について(2)			
第7回		量的調査と質的調査の特徴の比較について/下書きレポート作成			
第8回		社会調査における倫理と個人情報保護について			
第9回		小まとめ社会福祉士国家試験問題を解いてみよう			
第10回		KJ法を体験してみよう児童虐待問題を事例として			
第11回		KJ法を体験してみよう認知症高齢者問題を事例として			
第12回		課題自分の住んでいる地域の福祉関係の調査を1つ選んで、内容を紹介するレポート(A4で2枚)を作成。【レポートの内容】(1)調査の目的(2)調査の対象者(高齢者など)(3)調査方法(アンケートなど)(4)調査結果を何か1つ紹介(感想でなく、結果を書く)(5)調査結果に対する感想			
第13回					
第14回		総復習(期末試験対策)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	後日連絡する。		
	授業内評価	30点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。		
		10点	授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。			

(講義)		科目名:精神保健福祉実習指導Ⅱ		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健福祉実習指導Ⅱは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。				
	精神保健福祉実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。				
	精神保健福祉実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。				
	①実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 ②ソーシャルワーク技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 ③記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。				
また、これらの達成を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得するための基礎を身につける。					
教科書		『最新精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(精神専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題 1	自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。			
	学修のポイント1	実習計画の意義について述べよ			
	学修のポイント2	支援計画の作成について述べよ			
	学修のポイント3	ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士について述べよ。			
	学修のポイント4	実習記録ノートの内容について述べよ			
	学修のポイント5	スーパービジョンの意義について述べよ			
	学修のポイント6	評価の意味について述べよ			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する			
第2回		精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について			
第3回		実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて			
第4回		支援計画の作成について、実習記録ノートの内容について			
第5回		実習計画の意義について			
第6回		ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士について			
第7回		スーパービジョンの意義について			
第8回		相談支援制度についての理解(相談支援の概要)			
第9回		居住支援制度及び就労支援制度について			
第10回		精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)			
第11回		精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)			
第12回		精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)			
第13回		評価の意味について			
第14回		生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンス含む)		講師:山田哲史(HR:内山世璃奈)	
科目概要・目標	社会福祉士、精神保健福祉士、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、認定心理士、保育士資格、幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状など、大学卒業時に本科目の受講者はそれぞれの学科やコース応じた各種の資格を取得する。ここでは、広くそれぞれの資格の基本的な位置づけや活躍の機会について紹介するとともに、適宜、就職試験の受験を意識した試験問題の演習も行う。このようにして、近い将来、各自がどんなところで働くのかということについてのイメージを具体的に描くことができるようにするとともに、就職試験の際に出題される可能性のある問題を想定して解析し、得点力を高める一助としたい。				
	教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
	期末試験		内容は後日発表。		
	回数		授業内容		
	第1回		オリエンテーション		
	第2回		インターンシップ(1day 仕事体験)について説明		
	第3回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第4回		マイナビ就活講座		
	第5回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第6回		資格・就活(採用試験)関連②		
	第7回		資格・就活(採用試験)関連③		
	第8回		卒業生(精神保健福祉士)による体験談		
	第9回		児童養護施設などについての紹介		
	第10回		資格・就活(採用試験)関連⑤		
	第11回		資格・就活(採用試験)関連⑥		
	第12回		資格・就活(採用試験)関連⑦		
第13回		資格・就活(採用試験)関連⑧			
第14回		インターンシップに関する資料作成			
第15回		インターンシップに関する発表会①			
第16回		インターンシップに関する発表会②			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:精神疾患とその治療	講師: 平石 太一
科目概要・目標	精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。		
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。		
教科書		『精神保健福祉士養成セミナー 1 第6版 精神医学 ―精神疾患とその治療―』へるす出版	
提出課題	レポート設題1	統合失調症の症状、病因、治療、対応(個別での対応、地域での対応、地域精神医療も含む)について述べよ。	
	レポート設題2	気分(感情)障害及び神経症性障害について、それぞれの種類、症状、成因、治療、対応について述べよ。	
	学修のポイント1	統合失調症について	
	学修のポイント2	気分(感情)障害について	
	学修のポイント3	神経症性障害、ストレス関連性障害、心身症について	
	学修のポイント4	認知症、てんかんについて	
	学修のポイント5	地域精神医療について	
学修のポイント6		精神疾患の身体療法(向精神薬)について	
期末試験		後日発表	
回数		授業内容	
第1回		精神医学の歴史・概念・診断、病院精神医療と地域精神医療	
第2回		統合失調症①	
第3回		統合失調症②	
第4回		気分障害①	
第5回		気分障害②	
第6回		神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害①	
第7回		神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害②	
第8回		成人のパーソナリティおよび行動の障害	
第9回		生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
第10回		知的障害、心理的発達の障害等	
第11回		器質性精神障害、神経系の疾患	
第12回		精神作用物質使用による精神および行動の障害	
第13回		精神疾患の治療	
第14回		まとめ	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	授業態度、レポート等により評価する。
備考		私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。	

(講義)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅳ		講師:伊里みゆき		
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。 ソーシャルワーク演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関して事例をもとにその内容を検討するとともに、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また地域の特性や課題を適切に把握し、課題を解決するための理論と技術について、やはり事例を用いて実践的に理解を深めます。 ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で下記の学習目標を達成することが期待される。 1) ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。 2) 事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。 3) グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。 4) 地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉協議会で社会福祉士として地域福祉に従事してきた講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。					
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 「最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習(社会専門)」中央法規 及び 「最新社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワーク理論と方法(共通科目)」中央法規				
	提出課題	レポート設題 1	地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ。 ポイント 地域へのアウトリーチとアセスメント、また把握された課題に対する計画とその計画の実践のための社会資源の活用についてまとめる。			
		学修のポイント1	生活モデルについて			
学修のポイント2		問題解決アプローチについて				
学修のポイント3		行動変容アプローチについて				
学修のポイント4		ナラティブアプローチについて				
学修のポイント5		地域福祉課題の把握と計画の作成について				
学修のポイント6		地域課題の解決に向けた取り組みについて				
期末試験	授業の中で指定					
回数	授業内容					
第1回	オリエンテーション					
第2回	生活モデルについて					
第3回	生活モデルについて					
第4回	問題解決アプローチについて					
第5回	問題解決アプローチについて					
第6回	行動変容アプローチ・ナラティブアプローチについてについて					
第7回	行動変容アプローチ・ナラティブアプローチについてについて					
第8回	地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法等					
第9回	〃					
第10回	〃					
第11回	〃					
第12回	事例によるソーシャルワーク演習他					
第13回	〃					
第14回	まとめ 期末試験内容について					
第15回	期末試験 科目修了試験について					
第16回	科目終了試験					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	30点				
	授業内評価	20点	提出物(期限提出後は減点)			
		20点	授業態度(受講姿勢、居眠り、私語、スマホなどは減点)			
備考						

2025年度 前期

(講義)		科目名:介護概論		講師: 伊里 みゆき	
科目概要・目標	高齢化が進むわが国において、介護を必要とする人々は増加の一途を辿っている。本科目では、介護の概念、対象、理念などの総論を学んだ上で、介護予防、自立に向けた介護、認知症ケア、終末期ケアなどの概要について理解を深める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉協議会で社会福祉士として地域福祉に従事してきた講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟編集「最新社会福祉士養成講座2 高齢者福祉」中央法規 参考文献 福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規			
提出課題	レポート設題 1	介護の概念、対象、理念について述べよ。			
	学修のポイント1	介護過程について			
	学修のポイント2	認知症ケアについて			
	学修のポイント3	介護予防について			
	学修のポイント4	自立に向けた介護について			
	学修のポイント5	介護における終末期ケアについて			
	学修のポイント6	高齢者を支援する専門職の連携について			
期末試験		講義内にてお伝えします			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		介護の概念、対象、理念について			
第3回		介護の概念、対象、理念について			
第4回		介護の概念、対象、理念について			
第5回		介護の概念、対象、理念について			
第6回		介護の概念、対象、理念について			
第7回		介護過程について			
第8回		介護過程について			
第9回		介護における終末期ケアについて			
第10回		介護における終末期ケアについて			
第11回		高齢者を支援する専門職の連携について			
第12回		高齢者を支援する専門職の連携について			
第13回		実践事例他			
第14回		実践事例他 期末テストについて			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持込可		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること		
		20点	受講姿勢・居眠り、私語、スマホなどは減点		
備考					

(演習)		科目名:福祉教養演習Ⅰ（共通科目）		講師：堀田 利恵	
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。共通科目を実施する。				
教科書	「過去問解説集2025」中央法規、配布資料(第37回(27回)国試)「受験ワークブック2025」【共通】中央法規コピー				
回数	授業内容				
第1回	医学概論				
第2回	医学概論 確認小テスト				
第3回	心理学と心理的支援				
第4回	心理学と心理的支援 確認小テスト				
第5回	総復習、確認テスト①(医学概論、心理学と心理的支援)				
第6回	社会学と社会システム				
第7回	社会学と社会システム 確認小テスト				
第8回	社会福祉の原理と政策				
第9回	社会福祉の原理と政策 確認小テスト				
第10回	総復習、確認テスト②(社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策)				
第11回	ソーシャルワークの基盤と専門職				
第12回	ソーシャルワークの基盤と専門職 確認小テスト				
第13回	ソーシャルワークの理論と方法				
第14回	ソーシャルワークの理論と方法 確認小テスト				
第15回	総復習、確認テスト③(SWの基盤と専門職、SWの理論と方法)				
第16回	全復習/期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	後期末試験		
	授業内評価	30点	確認小テストは回収せず自己採点です。確認テスト①②③を回収し、評価対象にします。		
備考		各科目ワークブック解説と「一問一答」⇒「過去問」演習⇒「確認小テスト」の順で行います。			

(講義)		科目名:ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野(利用者理解を含む)と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(社会専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。			
	学修のポイント1	ソーシャルワーク実習の仕組み			
	学修のポイント2	実習計画書の意義について			
	学修のポイント3	支援計画の作成について			
	学修のポイント4	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について			
	学修のポイント5	実習記録ノートの内容について			
	学修のポイント6	評価の意味について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉士について、実習計画の作成			
第2回		配属先実習機関・施設の概要、支援内容について情報収集			
第3回		ソーシャルワーク実習の仕組み			
第4回		実習計画の意義について			
第5回		事前訪問の目的と意義について			
第6回		基本的なマナーと訪問時の注意事項について			
第7回		実習記録の意義、書き方、取り扱いについて①			
第8回		実習記録の意義、書き方、取り扱いについて②			
第9回		実習評価の意義について			
第10回		個別支援計画の作成について①			
第11回		個別支援計画の作成について②			
第12回		実習記録の意義、書き方、取り扱いについて③			
第13回		実習中の悩みやトラブルについて			
第14回		実習の実際(多機関連携、権利擁護、支援と評価など)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価、退室、あるいは科目不合格となることがあります。			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師:高橋直子	
科目概要・目標	パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。				
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)			
期末試験		実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		パワーポイントの基本			
第2回		いろいろなスライドの作成			
第3回		効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用			
第4回		リンク機能の利用			
第5回		グラフのスライドの作成			
第6回		SmartArt機能を使ったスライドの作成			
第7回		図解のパターンを理解するスライドの作成			
第8回		スライドマスターの利用			
第9回		図解の復習			
第10回		複雑な図解のスライドの作成			
第11回		自由にアレンジしたスライドの作成			
第12回		話の流れを考える			
第13回		復習			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(講義)		科目名:ソーシャルワークの理論と方法 I		講師: 堀田 利恵	
科目概要・目標		本科目では、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。特に、ソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス(相談援助の展開過程)と、様々な実践モデル及びアプローチについての理解を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術を学修し、ケアマネジメントや集団を活用した支援、コミュニティワーク等の理論と展開方法、スーパービジョンやコンサルテーションの専門知識と技術についての理解を深める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、司法福祉の保護観察官、社会福祉の生活保護CW、児童虐待防止推進員、学校福祉の教育委員会SSWr等に従事した経験があり、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師資格の講師のもと、複合的、重層的な支援例を交えて実践知識を学びます。			
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法』中央法規			
提出課題	設題		【設題1】ソーシャルワークにおける、人と環境との交互作用に関する視点と理論について述べよ。 ＜ポイント＞ソーシャルワークにおいて、人と環境との交互作用に関する視点がどのように位置づけられているのかを理解し、ソーシャルワーク実践の目的と特徴を説明することが求められる 【設題2】ソーシャルワークの展開過程と各段階の特徴、ソーシャルワーカーの役割について述べよ。 ＜ポイント＞ソーシャルワークの展開過程について、一連の流れを把握し、ソーシャルワークの方法・技術を理解することが必要である。 そしてソーシャルワークの価値に基づく実践として、ソーシャルワーク専門職の果たすべき役割を考察すること		
	学修のポイント1		マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、それぞれの対象と目的、方法について述べよ。		
	学修のポイント2		ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、それぞれの考え方と方法、特徴を述べよ。		
	学修のポイント3		ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について述べよ。		
	学修のポイント4		グループワークの概念とその展開方法をまとめ、実際の事例をもとにグループの意義とソーシャルワーカーの役割について述べよ。		
	学修のポイント5		ソーシャルワークにおける面接の意義と目的・技法について説明したうえで、ソーシャルワーカーに求められる専門的態度について述べよ。		
	学修のポイント6		ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義と目的、課題について述べよ。		
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(1) ソーシャルワーカーが学ぶ理論について理解する。教科書の第1章第1節～第3節を参照すること。			
第2回		人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(2) バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。教科書の第1章第4 節～第6節を参照すること。			
第3回		ソーシャルワークの過程(1) ケースの発見、エンゲージメント(インテーク)、アセスメントについて理解する。教科書の第2章・第3章を参照すること。			
第4回		ソーシャルワークの過程(2) プランニング、支援の実施とモニタリングについて理解する。教科書の第4章・第5章を参照すること。			
第5回		ソーシャルワークの過程(3) 支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。教科書の第6章を参照すること。			
第6回		ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(1) ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、様々な実践モデルを理解する。教科書の第7章第1節を参照すること。			
第7回		ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(2) ソーシャルワークの様々なアプローチを理解する。教科書の第7章第2節を参照すること。			
第8回		ソーシャルワークの面接技法 面接の意義と目的、面接の方法と実際を理解する。教科書の第8章を参照すること。			
第9回		ソーシャルワークの記録 記録の意義と目的、記録の内容とフォーマットについて理解する。教科書の第9章を参照すること。			
第10回		ケアマネジメント(ケースマネジメント) ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則、意義と方法について理解する。教科書の第10章を参照すること。			
第11回		グループを活用した支援 グループの意義と目的、グループワークの展開過程、セルフヘルプグループについて理解する。教科書の第11 章を参照すること。			
第12回		スーパービジョンとコンサルテーション スーパービジョンとコンサルテーションの意義と目的、方法について理解する。教科書の第15章を参照すること。			
第13回		ソーシャルアドミニストレーション ソーシャルアドミニストレーションの概念と意義、組織介入・組織改善の実践モデル、組織運営における財源確保について理解する。教科書の第13章を参照すること。			
第14回		ソーシャルアクション ソーシャルアクションの概念と意義、コミュニティ・オーガナイズングについて理解する。教科書の第14章を参照すること。			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)		
備考		積極的な質問、建設的な発言を大いに評価します。逆に、授業中の私語、スマホの使用等、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価になります。			

(講義)		科目名:家族福祉論		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標		この家族福祉論では、現代の多様化した家族の状況や抱える様々な問題や課題を提示し検討する。また、それらの問題や課題の解決・緩和を遂行するために必要なサービスやアプローチ、ネットワークなどについて学修する。加えて、この科目では、多彩なクライアントの選択や生き方などを尊重し、それらについて理解した上で環境を整え(エンパワメント)、彼らの健康的な領域を発見するとともに強化(ストレングス)し、より望ましい形で支援を提供するにはどのようにすればよいのかについて考える力を養い、柔軟な思考や問題や課題ができるように学修する。			
		教科書		橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。	
提出課題	レポート設題1		わが国の現代家庭が抱える問題や課題について述べ、その背景となった要因について記述せよ。		
	レポート設題2		少子化を解消するための福祉サービスやプランなどを具体的に挙げ、その効果について検討するとともに、家庭支援や保育所の特別事業などについて注目して、その効果や課題についてテキストや参考文献などを活用して記述せよ。		
	学修のポイント1		主体的である子どものおかれた状況について把握する。		
	学修のポイント2		DVや虐待などが子どもに及ぼす影響について考察する。		
	学修のポイント3		育児の外部化が子どもや親に及ぼす影響について検討する。		
	学修のポイント4		少子化の進行が社会や国に及ぼす影響について理解を深める。		
	学修のポイント5		家庭支援や子育て支援を行う際に、チームアプローチやネットワーク力が必要不可欠であることを認識する。		
	学修のポイント6		社会資源の充実および開発・人材の育成および配置について把握する。		
		期末試験		後日発表する	
		回数		授業内容	
		第1回		家族とはなにか	
		第2回		家族を取り巻く問題①児童虐待	
		第3回		家族を取り巻く問題②ドメスティック・バイオレンス	
		第4回		家族を取り巻く問題③離婚とひとり親家庭	
		第5回		家族を取り巻く問題④こどもの貧困	
		第6回		少子化の現状と課題	
		第7回		少子化に関する施策	
		第8回		家庭への支援にかかわる法と制度	
		第9回		家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(1)	
		第10回		要保護児童とその家庭支援	
		第11回		家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(2)	
		第12回		ソーシャルワーカーによる家庭支援	
		第13回		家族問題を理解するモデル	
		第14回		まとめ	
		第15回		期末試験	
		第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		30点	持ち込み可。論述式。	
	授業内評価		25点	提出物(学修のポイント3本、レポート下書き2本)期限厳守。遅れた場合は減点。	
			15点	授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)	
		備考			

(実技)	科目名:レクリエーションワーク	講師:山口榮三
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。	
教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとoshした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは/現場実習について 実技体験	
第2回	レクリエーション支援の展開方法(1) 個別及び集団レクリエーション支援方法とその実践	
第3回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(1)	
第4回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(2)	
第5回	レクリエーション支援実習1	
第6回	レクリエーション支援実習2	
第7回	レクリエーション支援実習3	
第8回	レクリエーション支援実習4	
第9回	レクリエーション支援実習5	
第10回	レクリエーション支援実習6	
第11回	レクリエーション支援実習7	
第12回	レクリエーション支援実習8	
第13回	レクリエーション支援実習9	
第14回	レクリエーション支援実習10	
第15回	まとめ	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み:可 論述式
	授業内評価	30点 支援計画案の提出及びその内容で評価します。
		10点 本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要・目標		本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。			
教科書		東京アカデミー『セサミノート②一般教養』			
提出課題	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
	学修のポイント1	次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事か簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)			
	学修のポイント2	東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。			
	学修のポイント3	AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。			
	学修のポイント4	日本の四季の天気の特徴を説明せよ。			
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。			
学修のポイント6	「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。				
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み		
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(講義)		科目名:精神保健福祉演習Ⅱ	講師: 上松勝二郎
科目概要・目標	精神保健福祉演習Ⅱは、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱにおいて、「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅱは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、精神保健及び精神障害者に関する法律、障害者基本法、また障害者総合支援法をはじめとする各種法制度の運用について実践的に学習する。また精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を用いて、医療機関、障害福祉サービス事業や行政機関等、関連する専門職について実践的に学ぶ。さらに、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。 精神保健福祉演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 ①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。		
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規	
	レポート設題 1	本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際に必要な要素について述べよ。	
	学修のポイント1	精神科医療機関で働く精神保健福祉士として理解しておくべき 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の ポイントを述べよ。	
提出課題	学修のポイント2	障害者総合支援法について述べよ。	
	学修のポイント3	介護保険法について述べよ。	
	学修のポイント4	障害者虐待防止法 について述べよ。	
	学修のポイント5	医療観察法 について述べよ。	
	学修のポイント6	障害者雇用促進法 について述べよ。	
	期末試験	後日指示	
回数		授業内容	
第1回		オリエンテーション・学習目標・個人の役割等	
第2回		医療機関における事例①ケースワーク・グループワーク	
第3回		医療機関における事例②関連法の理解	
第4回		障害サービス事業所における事例(地域生活支援等)	
第5回		障害サービス事業所における事例(障害者総合支援法の理解)	
第6回		行政機関における事例(障害者差別・虐待等)	
第7回		行政機関における事例(生活保護・年金制度等)	
第8回		司法分野における事例(医療観察法の理解)	
第9回		産業・労働分野の事例(職場ストレス・リワーク・就労等)	
第10回		高齢者福祉施設における事例(関連法の理解)	
第11回		児童分野における事例い(虐待を中心としたケースワーク)	
第12回		各依存症に対しての事例(アルコール・ギャンブルの予防・回復)	
第13回		各依存症に対しての事例(薬物依存を中心に)	
第14回		自殺対策に関する事例(現状・対策について)	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	
備考			

社会福祉学科

社会福祉コース

4年生

2025年度 前期

(演習)		科目名:福祉教養演習Ⅳ (精神保健福祉士専門科目)		講師 : 堀田 利恵	
科目概要・目標	本科目は、精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。精神保健福祉士の専門科目を実施する。				
教科書		「過去問題集」と配布資料(第27回)とワークブック(精保士専門)を中心に使うので忘れないで持参してください。			
		精神保健福祉士国家試験「過去問解説集2025」「受験ワークブック(精保士専門科目)」共に中央法規出版(緑色)			
回数		授業内容			
第1回		精神医学と精神医療			
第2回		精神医学と精神医療 / 確認小テスト			
第3回		現代の精神保健の課題と支援			
第4回		現代の精神保健の課題と支援 / 確認小テスト			
第5回		確認テスト① (精神医学と精神医療、現代の精神保健の課題)			
第6回		精神保健福祉の原理			
第7回		精神保健福祉の原理 / 確認小テスト			
第8回		ソーシャルワークの理論と方法(専門)			
第9回		ソーシャルワークの理論と方法(専門) / 確認小テスト			
第10回		確認テスト②(精神保健の原理、ソーシャルワークの理論と方法(専門))			
第11回		精神障害リハビリテーション論			
第12回		精神障害リハビリテーション論 / 確認小テスト			
第13回		精神保健福祉制度論			
第14回		精神保健福祉制度論 / 確認小テスト			
第15回		確認テスト③(精神障害リハビリテーション論、精神保健福祉制度論)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	前期末試験		
	授業内評価	10点	積極的な授業への関与や発言を評価する。		
		20点	確認小テストは回収せず自己採点です。確認テスト①②③を回収し、評価対象にします。		
備考		各科目ワークブック解説と「一問一答」⇒「過去問」演習⇒「確認小テスト」の順で行います。			

2025年度前期

(講義)		科目名: 権利擁護と成年後見		講師: 中 瀧 洋	
科目概要・目標	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。				
教科書		社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』中央法規			
レポート	設題 1	ソーシャルワーカーとして成年後見活動を行う上での留意点について権利擁護の視点から具体的に述べよ。			
科目終了試験	学修のポイント1	法定後見制度について			
	学修のポイント2	任意後見制度について			
	学修のポイント3	成年後見人等の義務と責任について			
	学修のポイント4	成年後見制度の最近の動向と課題について			
	学修のポイント5	日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携について			
	学修のポイント6	権利擁護にかかわる組織・団体について			
期末試験		後日連絡する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、相談援助の活動と法			
第2回		日本国憲法、行政法、民法、社会福祉関連法の理解			
第3回		学修のポイント1・3対策(法定後見制度について)			
第4回		レポート対策(社会福祉士、精神保健福祉士)			
第5回		レポート対策(成年後見制度の義務と責任、身上監護とは何か)			
第6回		レポート対策(成年後見制度と成年後見活動)			
第7回		レポート対策(成年後見制度の流れと審判)			
第8回		学修のポイント2対策(任意後見制度について)			
第9回		学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題)			
第10回		学修のポイント5対策(日常生活自立支援事業について)			
第11回		学修のポイント5・6対策(日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携)			
第12回		学修のポイント4対策(成年後見制度の将来展望と他分野との関連)			
第13回		学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)			
第14回		学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	後日連絡する。		
	授業内評価	30点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。		
		10点	授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。			

2025年度 前期

(演習)		科目名:福祉教養演習Ⅲ（共通科目）		講師：堀田 利恵	
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。共通科目を実施する。				
教科書	「過去問解説集2025」中央法規、配布資料(第37回(27回)国試)「受験ワークブック2025」【共通】中央法規(紫色)				
回数	授業内容				
第1回	医学概論				
第2回	医学概論 確認小テスト				
第3回	心理学と心理的支援				
第4回	心理学と心理的支援 確認小テスト				
第5回	総復習、確認テスト①(医学概論、心理学と心理的支援)				
第6回	社会福祉調査の基礎				
第7回	社会福祉調査の基礎 確認小テスト				
第8回	刑事司法と福祉				
第9回	刑事司法と福祉 確認小テスト				
第10回	総復習、確認テスト②(社会福祉調査の基礎、刑事司法と福祉)				
第11回	ソーシャルワークの基盤と専門職				
第12回	ソーシャルワークの基盤と専門職 確認小テスト				
第13回	ソーシャルワークの理論と方法				
第14回	ソーシャルワークの理論と方法 確認小テスト				
第15回	総復習、確認テスト③(SWの基盤と専門職、SWの理論と方法)				
第16回	全復習/期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	後期末試験		
	授業内評価	30点	確認小テストは回収せず自己採点です。確認テスト①②③を回収し、評価対象にします。		
備考		各科目ワークブック解説と「一問一答」⇒「過去問」演習⇒「確認小テスト」の順で行います。			

2025年度 前期

(講義)		科目名:情報処理演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要・目標	情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義は、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。 マルチメディア情報の作成や、Web技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。				
教科書		奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』 技術評論社			
提出課題	設題 1	情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアについて述べよ			
	設題 2	インターネット時代のセキュリティについて、具体的な例を挙げて、自由に論じよ			
期末試験		実技試験 (科目終了試験を兼ねる)			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / レポート対策 設題1「情報化社会と電子メディアの今後」			
第2回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第3回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第4回		レポート対策 設題2「インターネットのセキュリティ」 / レポート下書作成			
第5回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第6回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第7回		実技指導			
第8回		実技指導			
第9回		実技指導			
第10回		実技指導			
第11回		実技指導			
第12回		実技指導			
第13回		実技指導			
第14回		実技指導			
第15回		期末試験対策(実技復習)			
第16回		期末試験・スクーリング終了試験(科目終了試験を兼ねる)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	科目終了試験を兼ねる。 持ち込み不可 実技試験		
	授業内評価	30点	実技課題の作成状況、内容		
備考		下書・清書ともWORDを用いて作成すること。手書き不可。スマートフォン不可。			

(講義)	科目名:教養演習Ⅳ		担当:仁井田 和也
科目概要・目標	本科目は、学生が自らのキャリアを主体的に構築するための基礎を学ぶ授業です。自己理解を深め、職業観を育み、社会や産業についての理解を広げることで、将来のキャリア形成に向けた土台を作ります。演習やグループワークを通して、自己分析力やコミュニケーション能力を高めるとともに、面接対策なども行います。		
教科書	適宜配布		
期末試験	授業時に通知する。		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション、就職活動の流れについて		
第2回	福祉系法人の方による就職や仕事に関する説明 就活アプリ「キャリシー」の案内		
第3回	自己分析Ⅰ		
第4回	自己分析Ⅱ		
第5回	業界研究Ⅰ		
第6回	業界研究Ⅱ		
第7回	業界研究発表会		
第8回	企業研究Ⅰ		
第9回	企業研究Ⅱ		
第10回	企業研究発表会		
第11回	面接についてⅠ		
第12回	面接についてⅡ		
第13回	面接予行演習Ⅰ		
第14回	面接予行演習Ⅱ		
第15回	面接予行演習Ⅲ		
第16回	期末試験		
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	30点	持ち込み許可物件:授業時に配付の資料、自筆のノート等。	
	40点	評価ポイント:授業内課題・発表内容	
		評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無	
備考	本授業は、問題演習が中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。スムーズな授業展開のためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。進度によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(講義)		科目名： 専門研究Ⅲ		講師：室山俊浩・山田哲史	
科目概要・目標	社会人となってからも広く役に立つ教養を身につけることを視野に入れながら、時事に着目し、世の中の動向についてイメージできるすることとあわせ、今日に至る社会を築く上で大きな影響を及ぼしたと考えられている人物にも着目し、その生き様を追体験することを通して、その人となりを学ぶ機会を提供する。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/時事的トピックⅠ			
第2回		時事的トピックⅡ			
第3回		人物研究Ⅰ			
第4回		時事的トピックⅢ			
第5回		人物研究Ⅱ			
第6回		時事的トピックⅣ			
第7回		人物研究Ⅲ			
第8回		時事的トピックⅤ			
第9回		人物研究Ⅳ			
第10回		時事的トピックⅥ			
第11回		人物研究Ⅴ			
第12回		時事的トピックⅦ			
第13回		人物研究Ⅵ			
第14回		時事的トピックⅧ			
第15回		人物研究Ⅶ			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:教養演習Ⅲ		講師:室山俊浩	
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、特にSPI試験に出てくる問題を中心に解き方を学習する。				
教科書		適宜プリントを使用する。			
期末試験		授業で扱った問題から出題。			
回数		授業内容			
第1回		問題演習			
第2回		問題演習			
第3回		問題演習			
第4回		問題演習			
第5回		問題演習			
第6回		問題演習			
第7回		問題演習			
第8回		問題演習			
第9回		問題演習			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内態度		
備考					

(講義)		科目名:社会学概論		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標		対人援助職に就く者には、被援助者とそのニーズを、社会的な関係性の中で把握することが求められる。人間は社会的な関係の中で生まれ育つものであるし、援助を必要とするような問題(ニーズ)も社会的関係の中から生ずるものだからである。こうしたことから、援助職に就こうとする者には、人間を取り巻く「社会」のなりたちや変化について観察・分析する学問である社会学の学修が必要となる。この科目では、社会学の基本的な考えかたと対象について幅広く学修する。			
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】3 社会学と社会システム』中央法規。			
提出課題	レポート設題1	産業化とそれによる社会の変化について述べよ。			
	学修のポイント1	社会変動の要因について			
	学修のポイント2	家族の構造と機能について			
	学修のポイント3	社会システムについて			
	学修のポイント4	少子高齢化の要因と社会への影響について			
	学修のポイント5	社会集団とその分類について			
	学修のポイント6	社会学成立の時代的背景について			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		社会学とは			
第2回		日常生活と相互行為(1)概念			
第3回		日常生活と相互行為(2)実践			
第4回		社会生活と社会集団(1)自己の形成の場としての社会集団			
第5回		社会生活と社会集団(2)社会集団の類型			
第6回		家族の構造と機能			
第7回		社会構成とは			
第8回		社会変動とは			
第9回		レポート作成日			
第10回		組織と官僚制			
第11回		社会システム			
第12回		都市化と地域社会			
第13回		社会問題の社会学			
第14回		個人化する社会と社会問題			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	35点	持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート1本)期限厳守。遅れた場合は減点。		
		15点	授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)		
備考					

2025年度前期

(講義)		科目名:更生保護(刑事司法と福祉)		講師: 堀田 利恵	
科目概要・目標	犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び非行を起こさないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中での働きかけ(処遇)を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには更生保護制度の実際と今後の展望について学修する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、司法福祉の保護観察官、社会福祉の生活保護CW、児童虐待防止推進員、学校福祉の教育委員会SSWr等に従事した経験があり、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、こども家庭ソーシャルワーカー資格の講師のもと、複合的、重層的な支援例を交えて実践知識を学びます。				
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「刑事司法と福祉」中央法規出版			
提出課題	レポート設題1	次の課題のうち1つを選んで論述しなさい。 1 刑事政策における更生保護の意義と保護観察におけるダブルロールについて 2 更生保護制度を支えるボランティアについて			
	学修のポイント1	仮釈放制度について			
	学修のポイント2	保護観察について			
	学修のポイント3	更生保護制度における関係機関・団体との連携について			
	学修のポイント4	更生緊急保護について			
	学修のポイント5	医療観察制度について			
	学修のポイント6	犯罪予防活動について			
期末試験	後日発表する				
回数	授業内容				
第1回	刑事司法と福祉(総論)犯罪からの離脱、被害者支援				
第2回	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境(刑事司法の中の社会福祉士・精神保健福祉士等の専門職)				
第3回	刑事司法の基礎(刑法、手続き、処遇)、施設内処遇と社会内処遇				
第4回	更生保護制度Ⅰ(制度の歴史、その概要、更生保護施設の役割、更生緊急保護とは)				
第5回	更生保護制度Ⅱ(生活環境調整の目的と実際、関係機関との連携)				
第6回	更生保護制度Ⅲ(仮釈放の手続きと保護観察制度、処遇の内容)				
第7回	更生保護制度Ⅳ(更生緊急保護、保護司、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主等の民間協力者)				
第8回	少年司法(少年法、少年事件の手続き、処遇)児童福祉法との関係と各機関との連携				
第9回	医療観察制度Ⅰ(医療観察法の対象者、地方裁判所の関わり、審判の流れ、生活環境の調査と生活環境調整)				
第10回	医療観察制度の概要Ⅱ(入院処遇、精神保護観察、関係機関との連携、社会復帰調整官の業務の実際)				
第11回	医療観察制度Ⅲ(地域社会における精神保護観察、通院処遇、司法・医療・福祉等、関係機関との連携)				
第12回	更生保護制度の概要Ⅴ(更生保護における犯罪被害者施策)				
第13回	更生保護制度の概要Ⅵ 恩赦、犯罪予防活動				
第14回	更生保護の運用の実際と今後の展望				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)		
備考	学習のポイントから設題3問(2番4番5番)、レポート課題については、設題番号2を選択する。				

(演習)		科目名:福祉教養演習Ⅳ (社会福祉士専門科目)		講師 : 堀田 利恵	
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士国家試験に合格することを目標とする。社会福祉士の専門科目を実施する。				
教科書		「過去問題集」と配布資料(第37回国試)とワークブックを中心に使うので忘れないで持参してください。			
		社会福祉士国家試験「過去問解説集2025」「受験ワークブック(社会福祉士 専門科目)」共に中央法規出版(青色)			
回数		授業内容			
第1回		高齢者福祉			
第2回		高齢者福祉 / 確認小テスト			
第3回		児童・家庭福祉			
第4回		児童・家庭福祉/ 確認小テスト			
第5回		貧困に対する支援			
第6回		貧困に対する支援/ 確認小テスト			
第7回		確認テスト①【高齢者福祉・児童家庭福祉・貧困に対する支援】保健医療と福祉			
第8回		保健医療と福祉/ 確認小テスト			
第9回		福祉サービスの組織と経営			
第10回		福祉サービスの組織と経営 /確認小テスト			
第11回		確認テスト②【保健医療と福祉・貧困に対する支援・福祉サービスの組織と経営】ソーシャルワークの基盤と専門職			
第12回		ソーシャルワークの基盤と専門職 /確認小テスト			
第13回		ソーシャルワークの理論と方法(専門)			
第14回		ソーシャルワークの理論と方法(専門) /確認小テスト			
第15回		確認テスト③【SWの基盤と専門職(専門)/SWの理論と方法(専門)】 総復習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	前期末試験		
	授業内評価	30点	確認小テストは回収せず自己採点です。確認テスト①②③を回収し、評価対象にします。		
備考		各科目ワークブック解説と「一問一答」⇒「過去問」演習⇒「確認小テスト」の順で行います。			

(講義)		科目名:社会福祉運営管理論		講師: 原田 亘	
科目概要・目標	今日、地域社会においては福祉サービスに対する様々なニーズが存在し、また新たなニーズも生まれている。こうした多種多様なニーズに対しては現場職員の個人的スキル任せでは到底対応できるはずがなく、同じ理念を持つ人々が結集して組織を作り、そこにヒト、カネ、情報などの経営資源を結集し、調整し、配分し、多くのニーズに応えていくこと、すなわち経営管理というものが要求されてくる。したがって今日では、地域社会の福祉サービスの実践にとっては福祉サービスを提供する組織とそこにおける経営管理のあり方について理解することが必須となっている。 本科目が社会福祉士の受験科目「福祉サービスの組織と経営」と同義であり、また地域社会のニーズや社会状況の変化に応じて組織や職場の機能を評価し、必要な組織改革をおこなうことが社会福祉士の行動規範のひとつとして求められていることを忘れてはならない。福祉サービスの経営管理を「利用者を取り巻く環境とのかかわりあいを通しての間接的な社会福祉援助技術の実践」という位置づけで理解する必要がある。したがって、政策の変遷、法令等の制度、福祉サービス施設の業務内容を知るだけでは本科目を学修したことにはならない。福祉サービスの理念を実現するための組織内部での仕組みづくりや方策について実践的に学ぶことに心がけること。福祉サービスもそれ以外の組織も共通したところが多いので、自分がこれまでコンビニ等のアルバイト先や文化・娯楽サークルに所属した時の体験、また現職社会人ならば、会社等の職場での様々な経験や素朴な疑問点を思い起こすなどして、職場、組織についての自分なりの問題意識を持ちながら、各自勉強を進めてほしい。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書		日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』中央法規出版		
提出課題	レポート設題1		福祉サービスにおける組織と経営について述べよ		
	レポート設題2				
	学修のポイント1		福祉サービスに関わる組織と団体について		
	学修のポイント2		福祉サービスの組織と経営の基本理論について		
	学修のポイント3		福祉分野におけるサービスマネジメントについて		
	学修のポイント4		福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて		
	学修のポイント5		福祉サービスにおける人材の評価について		
	学修のポイント6		福祉サービスにおける人材の育成について		
期末試験		詳細については講義内で説明します			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①			
第2回		福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①			
第3回		福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②			
第4回		福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③			
第5回		福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割			
第6回		福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割/レポート作成			
第7回		演習 福祉サービス事業所を立ち上げよう①			
第8回		福祉サービス提供組織の経営と実際①			
第9回		福祉サービス提供組織の経営と実際②			
第10回		福祉サービス提供組織の経営と実際③			
第11回		福祉サービス提供組織の経営と実際④			
第12回		福祉人材のマネジメント①			
第13回		福祉人材のマネジメント②			
第14回		演習 福祉サービス事業所を立ち上げよう②			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		20点	持込不可	
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート、清書レポートの期限を守ること)		
		30点	授業は積極的に参加すること。演習ではチームワークの形成を心がけること。		
備考		自分自身のキャリアプランの中で、本講義での学びを活用できるように、主体的に取り組んでいただくことを期待します。			

(講義)		科目名:臨床心理学		講師: 平石 太一	
科目概要・目標	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達の観点からの臨床心理学の人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、さらに、様々な臨床心理学的援助の方法についても概説する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ねて、実践的な臨床心理学的な視点や思考方法を身につけていく。				
	(実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。				
教科書		野島一彦 『臨床心理学への招待』 ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	【設題1】子ども・子育てに関わる諸問題への対応について、臨床心理学の理論や技法を2つ以上用いて述べよ。〈ポイント〉子どもや子育てに関連する諸問題を一つ選び、その問題にどのように対応していけばよいのかについて臨床心理学の視点から論じる。臨床心理学で用いられる理論や技法に関する概念や用語を2つ以上用いて説明することが求められる。			
	学修のポイント1	臨床心理学における実践活動と研究活動について			
	学修のポイント2	臨床心理学におけるアセスメントについて			
	学修のポイント3	クライアント中心療法について			
	学修のポイント4	認知行動療法について			
	学修のポイント5	家族療法について			
	学修のポイント6	コミュニティ心理学的視点からの問題予防と成長促進へのアプローチについて			
期末試験		授業中での重要ポイントを中心に出題。			
回数		授業内容			
第1回		臨床心理学とは			
第2回		臨床心理学的援助①			
第3回		臨床心理学的援助②			
第4回		アセスメント①			
第5回		アセスメント②			
第6回		臨床心理学が扱う諸問題①			
第7回		臨床心理学が扱う諸問題②			
第8回		臨床心理学的援助③			
第9回		臨床心理学的援助④			
第10回		アセスメント③			
第11回		アセスメント④			
第12回		発達段階			
第13回		臨床心理学の領域			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート内容等を評価対象とする。		
備考		他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名:リハビリテーション論		講師: 戎 弘志	
科目概要・目標	リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体的のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践をバランスよく学ぶことで、総合的な援助体系としてのリハビリテーションの本質についての理解を深める。				
教科書		浅野大喜『リハビリテーションテキスト 人間発達学』メジカルビュー社			
提出課題	レポート設題1	[設題1] リハビリテーションの理念について述べよ。 ＜ポイント＞リハビリテーションの理念や定義がどのような歴史的変遷を経て今日に至っているか、また、その社会的背景についてもまとめること。			
	学修のポイント1	職業リハビリテーションについて			
	学修のポイント2	社会リハビリテーションについて			
	学修のポイント3	地域リハビリテーションについて			
	学修のポイント4	教育リハビリテーションについて			
	学修のポイント5	リハビリテーションの専門機関と専門職について			
	学修のポイント6	社会福祉とリハビリテーションについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉とリハビリテーションについて			
第2回		リハビリテーションの理念について 1			
第3回		リハビリテーションの理念について 2			
第4回		リハビリテーションの理念について 3			
第5回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 1			
第6回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 2			
第7回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 3			
第8回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 4			
第9回		職業リハビリテーションについて			
第10回		社会リハビリテーションについて			
第11回		地域リハビリテーションについて			
第12回		リハビリテーションの専門機関と専門職について			
第13回		教育リハビリテーションについて			
第14回		障害者福祉関係の法体系と施策について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験(社福)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	学修のポイントにおける2回の提出課題の提出状況と内容を評価する。		
備考		最新・社会福祉士養成講座 1 医学概論 (副)教科書として使用			